

(4) 爬虫類

爬虫類 001	有鱗目 タカチホヘビ科	岡崎市 情報不足
<b>タカチホヘビ <i>Achalinus spinalis</i> Peters</b>		

【選定理由・現在の生息状況】

市内では下の写真のように鍛埜町などで数例確認されているだけである。隣接する豊田市の旧市域東部(豊田市自然環境基礎調査会, 2005)や稲武地区(稲武町教育委員会, 1996)、小原地区(矢部ら, 2010)において山林地帯で数例確認されているだけで、岡崎市内での個体数の変化を推測することは難しかった。このヘビは山林の林床の湿った地中に棲む。かつての大規模な針葉樹の植林、そして近年の山林管理の放棄により、そのような林床の乾燥化や裸地化が進んでいると考えられ、タカチホヘビが好む生息場所が減少している恐れがある。そこで、注意喚起の意味を含めて情報不足種に挙げた。

県・国の評価区分	
愛知県	情報不足
環境省	リスト外

【種の概要】

全長 30~60cm の小型のヘビで、体鱗はビーズのように盛り上がり、真珠光沢があって美しい(千石ら, 1996)。他のヘビとは異なり、鱗と鱗の間に柔らかい皮膚が裸出していて、乾燥に非常に弱い。林道の側溝に落下してそのまま日が昇れば、すぐに干からびてしまうほどである。ふだんは湿った地中に棲んでおり、夜行性で、ミミズなどの小型土壌動物を食べている。雨上がりなど湿度の高い夜には路上に出てきて移動したり、路面に現れるミミズを食べたりする。しかし出てきた路上では交通事故の危険に曝され、轢死することもある。



岡崎市鍛埜町, 2006年10月22日, 永井 貞 撮影

本州、四国、九州に分布する。中国東部にも分布するとされているが、別種であることはほぼ間違いなく、タカチホヘビは日本列島の固有種と見なせる。

【引用文献】

- 稲武町教育委員会編, 1996. 稲武町史・自然・資料編, 380pp. 稲武町.  
 千石正一ら編, 1996. 日本動物大百科 5 両生類・爬虫類・軟骨魚類, 190pp. 平凡社, 東京.  
 豊田市自然環境基礎調査会, 2005. 豊田市自然環境基礎調査 資料編, 400pp. 豊田市.  
 矢部隆・野呂達哉・間野隆裕, 2010. 矢作川河畔林の両生類と爬虫類. 矢作川研究 No.14: 35-38.

(執筆者 矢部 隆)

爬虫類 002	有鱗目 ナミヘビ科	岡崎市 情報不足
<b>シロマダラ <i>Dinodon orientale</i> (Hilgendorf)</b>		

【選定理由・現在の生息状況】

市内では八ツ木町、池金町、板田町などで数例確認されているだけである。隣接する豊田市では、猿投山や旧市域東部(豊田市自然環境基礎調査会, 2005)、稲武地区(稲武町教育委員会, 1996)、の山林地帯で数例確認されているだけで、岡崎市内での個体数の変化を推測することは難しかった。森や林の林床に棲むが、乾燥に弱いわけではなく、東郷町や名古屋市東部の丘陵地のような比較的乾燥した林の中でも見られることがある。

県・国の評価区分	
愛知県	情報不足
環境省	リスト外

しかしそれでもタカチホヘビと同様に、かつての大規模な針葉樹の植林、そして近年の山林管理の放棄により、シロマダラが好むような林床が減少している恐れがある。また、ときに路上に現れて交通事故死したり、道路の側溝に落下して鳥類などの捕食者に捕らえられやすくなったりすることがある。そこで、注意喚起の意味を含めて情報不足種に挙げた。



岡崎市八ツ木町, 2005年10月22日, 永井 貞 撮影

【種の概要】

全長 30~70cm の小型のヘビである。灰色がかった地色で、幅の狭くない黒褐色の横帯が、胴体で 40 個前後、尾に 15 個あまりある(千石ら, 1996)。平地から山地にかけての森の林床の土や朽ち木の隙間、あるいは石の下などで過ごす。夜行性で、トカゲや小型のヘビといった爬虫類をおもに食べる。北海道南部、本州、四国、九州に分布する日本列島の固有種である。

【引用文献】

- 稲武町教育委員会編, 1996. 稲武町史・自然・資料編, 380pp. 稲武町.  
 千石正一ら編, 1996. 日本動物大百科 5 両生類・爬虫類・軟骨魚類, 190pp. 平凡社, 東京.  
 豊田市自然環境基礎調査会, 2005. 豊田市自然環境基礎調査 資料編, 400pp. 豊田市.

(執筆者 矢部 隆)